

2017年9月5日

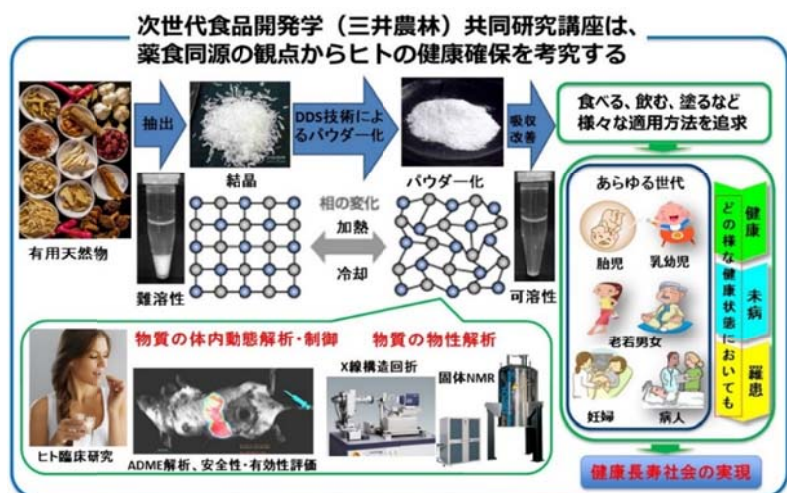
大阪大学大学院薬学研究科 と 三井農林株式会社 次世代の機能性食品開発の拠点となる共同研究講座を設置 —お茶やハーブなどの健康素材を溶けやすく吸収しやすくする技術—

分野:生命科学・医学系 キーワード:機能性食品、香粧品素材、カテキン、ハーブP

❖ 概要

国立大学法人大阪大学（本部:大阪府吹田市、総長:西尾 章治郎、以下「大阪大学」）と三井農林株式会社（本社:東京都港区、代表取締役社長:木下 茂樹、以下「三井農林」）は、安心安全で有用な次世代の機能性食品・香粧品素材の開発を目指し、共同研究講座の設置に関する契約を8月25日に締結しましたのでお知らせいたします。

これにより、大阪大学大学院薬学研究科に「次世代食品開発学(三井農林)共同研究講座」（以下「共同研究講座」）を設置し、食品類に含まれる有用物質の機能性を向上させ、安全性を科学的に証明・保証した新規機能性食品・香粧品素材の研究開発を推進していきます。また、創薬研究だけでなく機能性食品・香粧品素材を含めてヒトの健康をグローバルに捉えることの出来る若手研究者、並びに地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する健康サポート薬局やかかりつけ薬局などで活躍できる薬剤師を育成することで、健康長寿社会の実現を目指します。



❖ 次世代食品開発学（三井農林）共同研究講座について

<研究課題>

- ① カテキン、各種難溶性漢方・ハーブ素材の溶解性向上を目指した技術開発
- ② カテキン、各種難溶性漢方・ハーブ素材の ADMET^{※1} 並びに薬効評価方法の確立
- ③ 新たな機能性食品、香粧品素材のヒトを対象とした臨床研究

<世話教員>

大阪大学大学院薬学研究科 副研究科長 教授 八木 清仁

大阪大学大学院薬学研究科 教授 中川 晋作

<設置期間>

2017年9月1日から5年間(予定)

<当共同研究講座のコンセプトと特徴>

1. お茶やハーブ、漢方薬などの健康素材を溶けやすく、吸収しやすくする独自のパウダー化技術を開発。その技術によって機能性を劇的に向上させ、差別化と圧倒的なコスト競争力を実現。
2. 素材の研究開発にとどまらず、知財化、商品企画、マーケティングまでプロジェクトの視野に。各分野のプロフェッショナルがメンバーとして参画。消費者ニーズを掌握し、技術開発に反映。市場投入までのリードタイムを短縮。
3. 安全性を担保するためのチェック(ADMET・薬効解析)、臨床試験(臨床薬理・前臨床)といったプロセスも共同研究講座に内包。国内最高水準である大阪大学の人材、技術、機器などをフルに活用。消費者の安心安全に対する高まるニーズに完全対応。
4. 国内各地の素材を発掘し、地域の活性化に貢献。さらにアジア市場での販売も視野にいれ、大阪大学大学院薬学研究科附属薬用植物園が保有するアジアの薬草や漢方薬も積極活用。
5. 自然由来の素材からヒット化合物、リード化合物を創出し、健康長寿社会の実現に役立つ次世代の健康食品や機能性飲料、化粧品などを開発。大阪大学大学院薬学研究科の附属創薬センター、附属化合物ライブラリー・スクリーニングセンターが支援。
6. 「食べる」や「飲む」、「塗る」だけでなく、様々な適用方法を追求。例えば香りのディフューザーによる噴霧や温泉利用型健康増進施設との連携など、ライフスタイルを豊かにする独創的な提供方法も企画開発。多様なニーズに対応。
7. 以上のプロセスを通じ、事業化を強く意識しながら新たな高機能素材を研究開発すると同時に、マーケティングや経営感覚をもった研究者や地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する健康サポート薬局やかかりつけ薬局で活躍できる薬剤師を育成し、社会に輩出。健康長寿社会化に貢献。

❖ 用語説明

※1 ADMET

薬物が生体内に取り込まれてから体外に排泄されるまでの過程を示す、吸収(absorption)、分布(distribution)、代謝(metabolism)、排泄(excretion)、毒性(toxicity)の英語表記の頭文字からなる略語で、薬物の薬効と毒性に関係する重要な項目。

❖ 本件に関する問い合わせ先

大阪大学大学院 薬学研究科 教授 八木 清仁(やぎ きよひと)

TEL:06-6879-8195 FAX:06-6879-8195

E-mail:yagi@phs.osaka-u.ac.jp

三井農林株式会社 人事総務チーム 曾我 有美子(そが ゆみこ)

TEL:03-3539-6501 FAX:03-5510-2551

E-mail:yumiko.soga@mitsui-norin.co.jp